

★寒サバの釣期は例年2月末ごろまで。釣行はお早めに



▲サバもイカも船長の合図と同時にオモリを投げ入れる

▲サバの釣り場は勝浦沖の水深140メートル前後



▲釣丸ではオマツリを軽減するためイカ仕掛けのツノ数は8本まで

▶当日は直結仕掛けを使う人が多かった

▼スルメイカは胴長30~40センチ級が中心



▲スルメイカの釣り場は勝浦沖の水深180メートル前後。底から10メートル上まで誘っていく

▶ゴマサバも脂ノリノリでウマイ

▼投入のたびにサバが多量に掛かっていく



▲8本バりにパーフェクトもあった



◀当日は大満足の釣れっぷりで早揚がりとなった  
▼釣り上げたサバはハリを外してオケへ。あっという間に満タンに

# 外房勝浦港出船 期間限定の極ウマ魚が開幕 勝浦沖の寒サバ&イカリレ!

撮影◎本誌編集部

**150号と200号、オモリは2種類用意!**  
仕掛けはサバがフラッシュャーサビキの8本バりで、慣れていない方は半分にカットした4本バりがトラブルも少なく手返しもよくなるのでおすすめ。オモリはマサバの泳層まで素早く沈めるために200号を使用。スルメイカはブラツノ18センチのブランコもしくは直結仕掛けで、オモリ150号を使う。



▲サバもスルメイカ用のタックルで楽しめる。竿は全長2メートル前後のイカ竿、リールはPE 4号の道糸を巻いた中型電動

(詳細は50ページ参照)

イカは目下のところスルメイカ主体。釣り場は同沖の水深180メートル前後で、胴長30~40センチ級が船中ポツポツの釣れ具合。今後はヤリイカがメインになるためイカはまだまだ狙えるが、寒サバは例年2月末あたりまでが釣期となる。サバ好きの方は早めに釣行しよう。

この時期限定のお楽しみ、たっぷり脂の乗った寒サバ釣りが外房勝浦沖でスタートした。取材した外房勝浦港の釣丸では早朝の1~2時間ほどフラッシュャーサビキでサバを狙い、そのあとイカに転進する寒サバとイカリのリリースで出船中。

サバの釣り場は航程30分ほどの勝浦沖の水深140メートル前後。当日は海面から30~60メートル前後のタナを狙い、30~40メートルで掛かるとゴマサバが多いもの、そこを通過し50~60メートルまで仕掛けが到達すると30~45センチ級のマサバが次つぎにヒット! 全員クーラー満タンの良い日となった。



▲良型のサバの多点掛けは引きも強烈



◎外房勝浦港・釣丸 横尾 博史船長